（別紙６）

［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成20年11月13日

【評価実施概要】

事業所番号	０９７２１００５０７		
法人名	医療法人杏仁会		
事業所名	グループホーム仁良川苑		
所在地	栃木県下野市仁良川１４４２ （電　話）０２８５－４７－００２２		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草１－１０－６		
訪問調査日	平成20年10月24日	評価確定日	平成20年11月13日

【情報提供票より】（平成20年10月1日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	１ユニット	利用定員数計	９人
職員数	10 人	常勤6人,非常勤4人,常勤換算7.2人	

（２）建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	35,000 円	その他の経費（月額）	・水道代―5,000円 ・電気代―10,000円 ・おむつ代―実費	・ガス代―10,000円 ・理美容代―2,000円	
敷　　金	無				
保証金の有無（入居一時金含む）	無		有りの場合償却の有無	―	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円	
	夕食	400 円	おやつ	100 円	
	または1日当たり	円			

（４）利用者の概要（平成20年10月1日現在　）

利用者人数		９名	男性	３名	女性　６名
要介護１		１名	要介護２	２名	
要介護３		３名	要介護４	３名	
要介護５		名	要支援２	名	
年齢	平均	84 歳	最低	75 歳	最高　98 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	海老原医院,岡田医院,山中歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昔ながらの農家が立ち並ぶ通り沿いにあり、昔からの立派な門構えが印象的なホームである。敷地内には栗の木や竹林などがあり、栗や筍が食卓を飾ることもある。立派な大木の落ち葉さらいや広い敷地の草むしりなどが、近所の方と自然に触れ合うきっかけにもなっている。母体は医療法人で、週1回の往診や2ヵ月に1回の検診など医療との連携が取りやすい体制になっている。家族会があり、家族同士で情報交換をする家族ノートがあったり、センター方式のアセスメントに一緒に取り組んでもらったり、カーテンの生地で暖簾を作ってもらったりと家族との関係づくりも良くなされている。肩肘張らない自然な雰囲気の中で、地域との付き合い方や入居者への支援などに取り組んでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	外部評価の結果は運営推進会議にも報告し、スタッフ会でも話し合っている。12月に予定している消防訓練に地域の方を呼ぶようにしたりと地域との交流が更に深まってきている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価は、中心的なスタッフ1名が周りの意見を聞きながらまとめ、管理者が確認した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	家族会会長、自治会長、市の課長、地域包括支援センター職員がメンバーになっている。会議ではホームの状況を報告し、地域の行事や市の行事の案内、研修会等の情報提供などをしてもらっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	入居者の日常の様子などは、家族の訪問の際に報告したり、電話で報告したりしている。また、写真にコメントを添えたものと日常の様子を記したものの2種類のお便りを毎月家族に送付しており、その際に預かり金の報告もしている。個人別のアルバムもつくっている。職員の交替があった時は、年2回の家族会のときなどに報告している。家族が訪問した際、電話での報告の際、年2回の家族会の際等に意見等を言ってもらえるよう伝えている。家族同士の連絡帳である家族会ノートがあり、過去に外の看板など家族から出た意見をもとに運営に活かした例がある。要望等があったときには、スタッフ会で話し合ったり、日誌で申し送ったりして職員間の共有を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会に加入しており、回覧板やごみステーション立ちなど地域の一員としての役割を担っている。外掃除をしている時や草むしりをしているときに近所の方に挨拶したり、野菜や漬物をもらったりといった近所づきあいもしている。毎年恒例のバザーでは、近所の方から物品を提供してもらったり、チラシをつくって近所に配布したり、訪問して誘ったりして多くの参加者を集めている。その他に餅つきや芋煮会などに地域の方を誘っている。お祭りや敬老会などにも参加している。

2．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりにとっての『安心できる場』となり、心ふれあう暮らしを通じて『その方の願い』『ゆとりある時間』を大切にします。」「『もうひとつの家族」としてありのままの姿を受け止め合えるような思いやりのある暮らしを大切にし、いつも『ありがとう』という感謝の気持ちを忘れません。」「ご家族・地域社会・かかわるすべての方々と、助け合いそして社会とつながって行き『笑みの多い暮らし』を目指します。」をホームの理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一昨年、「自分が入居したいと思うグループホーム」という観点で職員全員でキーワードを出し合って、それまでの理念を整理した。家族に書いてもらった挿絵入りの色紙に書いて玄関に掲出して職員や訪れた方が目につくようになっている。月に1回のスタッフ会で話し合いながら理念の実践に向けて取り組んでいる。職員からは「安心」や「笑顔」などを大切にしていることが聞かれた。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧板やごみステーション立ちなど地域の一員としての役割を担っている。外掃除をしている時や草むしりをしているときに近所の方に挨拶したり、野菜や漬物をもらったりといった近所づきあいもしている。毎年恒例のバザーでは、近所の方から物品を提供してもらったり、チラシをつくって近所に配布したり、訪問して誘ったりして多くの参加者を集めている。その他に餅つきや芋煮会などに地域の方を誘っている。お祭りや敬老会などにも参加している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営推進会議にも報告し、スタッフ会でも話し合っている。12月に予定している消防訓練に地域の方を呼ぶようにしたりと地域との交流が更に深まってきている。今回の自己評価は、中心的なスタッフ1名が周りの意見を聞きながらまとめ、管理者が確認した。	○	職員の交替が少なく、また開設から4年目を迎えており、今後のホームの進むべき方向性を職員間で共有する意味でも、次回、自己評価を実施する際に更に職員の参加の度合いを高めていくことにも期待したい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会会長、自治会長、市の課長、地域包括支援センター職員がメンバーになっている。会議ではホームの状況を報告し、地域の行事や市の行事の案内、研修会等の情報提供などをしてもらっている。	○	自治会や市から行事の誘いを受けたり、ホーム玄関には地域包括支援センターから提供してもらった介護教室等の案内が掲示されていたりと運営推進会議を通しての連携の姿が見られる。今後地域の中で関係を深めていきたい機関や人なども会議に誘ってみるなど、更なる充実にも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加のほか、管理者が窓口となって電話等で相談をしたり、空き室ができた時に相談したりしているが、行き来する関係までにはなっていない。	○	ホーム（法人）として、日中1人になってしまう地域の高齢者との交流を検討するなど、地域の中のニーズをキャッチしている様子もうかがえる。地域の中の認知症ケアの拠点として、市と更なる連携ができるような関係づくりをすすめていくことに期待したい。
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日常の様子などは、家族の訪問の際に報告したり、電話で報告したりしている。また、写真にコメントを添えたものと日常の様子を記したものの2種類のお便りを毎月家族に送付しており、その際に預かり金の報告もしている。個人別のアルバムもつくっている。職員の交替があった時は、年2回の家族会のときなどに報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した際、電話での報告の際、年2回の家族会の際等に意見等を言ってもらえるよう伝えている。家族同士の連絡帳である家族会ノートがあり、過去に外の看板など家族から出た意見をもとに運営に活かした例がある。要望等があったときには、スタッフ会で話し合ったり、日誌で申し送ったりして職員間の共有を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年くらいでは新しい職員が1名入っているが、もともとホームで勤めていた方なので顔ぶれは変わっていない。開設以来の異動や職員の交替もほとんどないが、お別れ会や顔合わせなどをしている。新しい職員については、いきなり仕事をするのではなく、まずは入居者との関係づくりをしていくことを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修のほか、新任研修や認知症介護実践研修など必要に応じて、あるいは順番で外部の研修に参加している。研修に参加したときはスタッフ会の時に報告するなどしている。また、介護雑誌等の購読をしている。仕事上での迷いなどは、他のスタッフや法人の医師に助言をもらうなどしている。	○	人材育成や研修について今後どのようにしていくのか法人と話し合っていきたいと考えている。ホームとして必要な人材像を検討しながら、すべての職員が段階的・計画的に必要な研修を受けたり、効果的なOJTができるような体制をつくっていくことに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており、職員を研修に参加させたりしている。今のところ他ホームとの勉強会や相互訪問などはしていないが、同市内の他グループホームとの交流の話が持ち上がっている。	○	他ホームとの交流については、運営者も積極的な考えを持っていることから、話の持ち上がっている他グループホームとの交流の実現を図っていくことに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人にもホームに来てもらい、ホーム内を見学し、同性の入居者と話をしてもらったりしている。入居当初は、生活の場が変わる不安を軽減するために、職員が隣に座ったり、家族に連絡をとったりしながら徐々に安心して生活してもらえるような雰囲気づくりに努めている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事づくりや食器洗い、洗濯物干し・たたみ、裁縫など入居者のできることや得意なことを活かして一緒に生活をつくっている。煮物の味付けを入居者に教えてもらったりもしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で入居者の思いを把握したり、センター方式のアセスメントを用いて、家族や職員から情報を集めて本人本位に検討している。センター方式のアセスメントでは家族にホームに来てもらって一緒に取り組むなど、家族の協力も得ている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメント手法も取り入れ、本人・家族の希望や思いを反映した計画づくりに努めている。また、スタッフ会の話し合い等で職員の気づきなどを取り入れ、以前他の介護サービスを利用していた方については、そちらから情報を得て介護計画に反映させている。	○	ケアマネジャーが週1回の勤務になっていることから、日頃入居者に接する機会の多い職員の気づきなどをより活かせるような介護計画づくりのプロセスを検討していくことに期待したい。また、センター方式のアセスメントを活かした「本人らしい暮らしの支援」という視点での介護計画づくりを追求していくことにも期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1回モニタリングを行い、変化があった時にはセンター方式を再検証し、家族に相談し、スタッフ会で話し合って介護計画を見直している。2ヵ月に1回程度の見直しをするケースもある。また、状態の変化があった時には随時、計画の見直しをしている。日常のケアの変更などについては、申し送りノートを活用して職員間の共有を図っている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院や歯科医院への通院付き添ったり、買い物や市の図書館・資料館に出掛けたりと柔軟な支援に努めている。また敷地続きで同法人のデイサービスセンターがあり、行事等で交流を図っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医院が協力医療機関になっており、週1回の往診、2ヵ月に1回の検診など医療との連携が図りやすい体制になっている。協力医療機関以外の通院は家族にお願いしているが、家族が遠方である場合には職員が付き添うなどして適切な医療が受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の事務長などとも相談して、医師の指示等を踏まえながらも本人・家族の希望にそって看取りも視野に入れた支援をしていくこととしている。家族は、ホームでの最期を希望する方が多い。	○	ホームとしては早い段階での話し合いの必要性も感じており、本人の生き方の希望も踏まえながら、段階に応じた話し合いを繰り返していくことに期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対して、できないことを指摘するような対応をしない、大きな声を出さない、自然な形で接することなどに気を付けている。できるだけ同性介助に努めている。トイレには家族がつくってくれたカーテンが掛けてあった。個人記録等は事務室で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが決まり切った日課はない。起床や朝食の時間など一人ひとりのペースに合った支援をしている。入居者の希望に合わせて少人数で出掛けたり、馴染みの場所（東京）などに職員と一緒に出掛けたりといったこともしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1か月ごとに献立をつくっているが、柔軟な変更も加えている。好き嫌いや食べられないものなどにも配慮している。全員ではないが入居者も一緒に食事づくりや洗い物などをしている。食事づくりが難しい方にも盛り付けをお願いしたりしている。ホームの敷地で採れる栗や筍が食卓にのぼることもある。職員は入居者と一緒に同じものを食していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	15:30ぐらいから夜間も含めて本人の希望に沿った時間帯に入浴できるよう支援している。身体状況により午前中に入浴してもらう方もいる。一番風呂や長風呂など、それぞれの習慣や好みに応じた支援に努めている。ゆずを入れたり、入浴剤を用いたりもしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なことや習慣、できることに配慮しながら、食事づくりや洗い物、食器拭き、テーブル拭き、洗濯物干し・たたみ、掃除などの役割の支援をしている。花の手入れや植木仕事、歌、外出など楽しみごと、気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	回覧板を回したり、畑の様子を見たり、散歩したり、食材の買い物に出掛けたり、ドライブに出掛けたりと日常の中で戸外に出掛ける機会をつくっている。また、家族を誘って毎月外食に出掛けたり、東京など普段行けない場所に一緒に行ったりといったこともしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に日中は鍵をかけておらず、自由に庭に出ることができるようになっている。スタッフが手薄になるときなど施錠することもあるが、まれであり、家族には了承を得ている。門扉にも鍵はかかっていないが、門の重みがあり、開閉にはある程度の力が必要である。外出・戸外にでる機会は頻繁につくっている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を定期的に実施している。今年は6月に1回実施し、12月には地域の方の参加も呼びかけて実施する予定である。防火管理マニュアルが作成されている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフ2名が担当して、法人の栄養士のアドバイスも得ながら、1か月ごとの献立を作っている。食事の摂取が少ない時には本人の好きな物を提供し、また記録に残している。水分についても、足りない場合は好きな物を提供して適切な量が確保できるよう支援している。毎月1回以上は体重測定をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテーブルセットなども家庭的なものを取り入れ、畳スペースの床の間には季節ごとに掛け替える掛け軸や、昔入居者が作った壺などが飾られている。ホーム内に飾られている花は入居者の手によるものであり、訪問日にはコスモスなどが飾られていた。テレビをつけっ放しにせず、生活の音が聞こえるような空間づくりを大切にしている。日差しはカーテンやよしず等で遮っている。換気も適切に行われ、室内に気になる臭いや空気のよどみ等はなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は持ち込んでもらうようになっており、タンス、鏡台、賞状、本人の作品などが持ち込まれている。カーテンも持ち込みになっており、ベッドの置き方なども含め、それぞれに異なる印象をもつ居室づくりがなされていた。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。